

研究名

ニューモシスチス肺炎に対するスルファメトキサゾール・トリメトプリム投与量の検討

1. 研究の対象

2022年4月から2023年3月までの1年間で当院入院患者においてST合剤を投与した患者

2. 研究目的・方法

間質性肺炎やネフローゼ症候群などステロイド治療が用いられる疾患では、全身性免疫低下により治療中の合併症としてニューモシスチス肺炎（以下、PCP）のリスクが高い。治療の障害となるためスルファメトキサゾール・トリメトプリム（以下、ST合剤）の予防投与が推奨されている。しかし、投与量は連日投与と隔日や週3回投与など用法は様々である。

そこで、済生会横浜市南部病院（以下、当院）におけるST合剤用法別のPCPの発生率、副作用発現率、中止後の対応方法を調査した。

3. 研究に用いる情報の種類

観察研究

4. 外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された患者の個人情報は個人が特定できないよう匿名化し、パスワードをかけて厳重に管理されます。

5. 研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 加藤一郎

6. お問い合わせ

本研究にご質問、または臨床研究の参加を希望されない場合は下記連絡先までお問い合わせください。

病院代表：045-832-1111

担当者：薬剤部 田辺 真里